

ドクター + 教えて

磐田市立総合病院に 「肝臓内科」を新設します

磐田市立総合病院 副院長 小林 良正



磐田市立総合病院では、ウイルス性肝炎、脂肪肝および肝がんに対する診療を充実させていくため、現在の「消化器内科」の担当のうち、肝臓分野の疾患を独立させ、新たに「肝臓内科」を設置します。肝臓疾患の診断および治療は急速に進歩していることから、専門医による、しっかりとした病態の評価を受け、治療を始めることが大切です。肝臓内科では、肝臓の病気に対して豊富な経験と学会認定の専門医資格を持つ医師を中心に質の高い医療を提供していきます。診断や治療方針については、放射線診断科や消化器外科との緊密な連携の下に、カンファレンスなどにて多方面から評価し、治療を進めます。また診療にあたっては、患者さんにできるだけわかりやすく説明するとともに、疑問には十分にお答えし、納得いただいた上で診療を進めていきます。さらに、当院には静岡

県認定肝炎医療コーディネーターが常勤する肝炎患相談支援センターも併設しております。患者さんやご家族からのご相談をお受けするとともに、肝臓疾患に関する最新情報も提供していきます。肝臓内科は、肝臓の病気で悩みの方々のお役に立てるものと確信しておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

主な診療内容

- ・急性肝炎・慢性肝炎（B型肝炎、C型肝炎など）の診療
- ・肝硬変の診療
- ・肝がんの診療（ラジオ波焼灼術、肝動脈化学塞栓術、分子標的薬治療など）
- ・代謝性肝疾患（非アルコール性脂肪性肝疾患、鉄過剰症など）の診療
- ・アルコール性肝障害の診療
- ・自己免疫性肝疾患（自己免疫性肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎など）の診療

⑧ 外来診療には紹介状が必要です

「認知症のサインを見逃さない」

磐田市立総合病院認知症疾患医療センター
保健師（認知症相談員） 森田 洋一

最近ではテレビや雑誌などのメディアでも取り上げられることが多くなった「認知症」ですが、初期段階では状態の変化に気付きづらいため見逃されることも少なくありません。認知症は誰にでも起こり得る可能性があり、進行する病気だからこそ、早期に発見することが重要になります。

○「加齢」と「認知症」の物忘れ

加齢による物忘れは自然現象であり、60歳を過ぎると人間の記憶力は徐々に低下していくと言われています。「昨日食べたものが思い出せない」といった他者に指摘されて気づくような物忘れは加齢による現象と考えられます。ただ、「食事をしたことを忘れる」など、体験自体を忘れてしまう物忘れは認知症である可能性もあるため注意が必要です。

○日常生活にみられるサイン

認知症は長い年月をかけて少しずつ進行する病気であるため、小さな異変を感じても見逃しがちです。例えば、外出時に季節に合わない服装を選ぶようになったり、日常生活が送れない

い程ではないので見過ごしてしまいうす。しかし、そのまま放置してしまうと認知症を発症する可能性も考えられますので、早めに相談することをお勧めします。

○「おやっ」と思ったなら早めに相談

気になる症状があれば、まずはかかりつけ医にご相談ください。困ったことや心配事があればお住まいの地域の地域包括支援センターでも相談することができます。もちろん磐田市立総合病院の認知症疾患医療センターでも相談窓口（平日8時30分～17時00分）を設けていますので、お気軽にご相談ください。

認知症疾患医療センターでは、専門医療機関としてかかりつけ医からの紹介を受けて外来で鑑別診断を行います。診断後はかかりつけ医に情報提供し、日常診療をお願いしています。認知症になってもできる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、各関係機関と連携しながら早期対応に取り組んでいきたいと思ひます。

くらしの
+
情報